



第9回(昭和52年度)日本映画照明技術者協会 照明技術賞

- 劇映画部門 技術賞 犬神の悪霊 担当 小林芳雄(東映支部)
 劇映画部門 奨励賞 ハウス 担当 小島真二(東宝支部)
 CF部門 技術賞 東芝ボムビート 担当 佐野武治(本部会員)
 TV映画部門 奨励賞 消えた私 担当 三浦 礼(松竹支部)
 特撮映画部門 該当作品なし
 悲劇映画部門 該当作品なし

劇映画部門 技術賞 「犬神の悪霊」 東映作品



東映支部 小林芳雄
昭和8年10月4日生

昭和32年4月、東映東京撮影所に入社。昭和50年2月、「ウルフガイ・燃える狼男」で技師として第一回を担当。「女必殺拳」「トラック野郎」等を担当「犬神の悪霊」で第9回照明技術賞を受賞、現在に至る。

選定理由：「犬神の悪霊」の照明は素材の難しい作品であるのに対し、よく理解した奇を以って望む照明設計に基づき、実験的效果を採り入れ、意識的なライティングを試み、作品内容を照明により劇的に盛り上げた技巧は、照明技術賞に値するものと認める。

劇映画部門 「犬神の悪霊」照明スタッフ

稲葉好治、酒井福夫、飛田博文、鈴木英二、矢島宏、斎藤警信

劇映画部門 奨励賞 「ハウス」 東宝映像作品



東宝支部 小島真二
昭和3年3月8日生

昭和24年11月 株式会社東宝撮影所に入社。昭和46年7月技師となり現在に至る。代表作「日本猿花伝」「ノストラダムスの大予言」「妻と女の間に」

選定理由：「ハウス」の照明は、CFの演出者・撮影者との初の映画製作にも拘らず、よく理解し、融和せる協調のもとに造形的な、色彩ライティングのモチーフある技術を施し、劇画・

CM・写実的等種々なる要素を充分に表現した照明技術は、近時稀に見る映像美である。よって、その成果を認め奨励賞に値する。

CF部門 技術賞 「東芝ボムビード」 太陽企画



昭和22年 松竹京都撮影所入社、昭和32年技師となる。昭和40年同撮影所閉鎖により、フリーとなる。代表作に、中村登「古都」篠田正浩監督「沈黙」昨年度篠田正浩監督「はなれ瞿女おりん」現在は劇映画、CF等のフリー照明技師として活躍中。

本部会員 佐野武治
昭和5年5月11日生

選定理由：短時間に商品を訴えるCFフィルムの本質の中で、クールな男性のボデーアクションの持つ意図をライティングにより画面効果を上げ商品のイメージを高めた高度のバランス配光技術は、52年度照明技術賞に値する。

TV映画部門 奨励賞

「消えた私」 松竹テレビ室作品



松竹支部 三浦 礼
昭和3年10月7日生

昭和23年6月1日松竹大船操映所(照明課)入社。初担当は昭和37年「充たされた生活」監督羽仁進。代表作に「拝啓天皇陛下様」昭和38年4月、「五弁の椿」昭和39年11月、「影の車」昭和45年6月がある。何れも監督野村芳太郎、撮影川又昂。最近の作品には昭和52年の「陰獣」「新宿馬鹿物語」昭和53年「九八とゲープル」がある。

選定理由：「消えた私」の照明は、器材や時間等、種々の制約のもとで綿密なる照明設計をたて、不安定な心理を強調し、劇的内容を高揚した技法と努力は今後のテレビ映画照明技術の向上に期待し、奨励賞に値するものと認める。



審査失格

選定委員長 青木 好文

早いもので照明技術賞の制度が当協会に設立されて9年目、第9回にもなった。来年(53年度)はその回数も2桁になる。その間幾多の優秀照明技術賞が生まれ、授賞はされて来たが、協会の姿勢と権威が噛み合わずに「該当なし」の年度は皆無であった。当協会は照明技術賞に対し、甘いのか公正なのか、9回全部が技術賞の規定点を獲得し、授賞の対照となってしまう。今回私が選定委員長を務めるに当たって今年こそは、毅然とした姿勢と責任をもって審査に当たり、初の「該当なし」という位の厳しい態度で、照明技術の大成と、協会の体質向上のために安易には妥協しない。との誠意と意欲をもって臨みはしたものの、候補作品(推薦作品)の選考試写を見たり、照明内容の分析を進めていくうちに、どの作品も技術者が揮然たる創造と表現方法の勝負に生きる姿勢を示し、照明技法の適確さと照明機材の使用方法及び実験的效果を採り入れ、冒険し、常に前進の精神が伝わって来る。まして照明担当者たる技師とは協会を通じても、又は個人的にも顔見知りの間柄なので、性格、感情、仕事に対する態度等、すべて知りつくしている。あの無器用な彼にどうしてこんな緻密なライティングが出来るのか、又あの神経質な彼が何処にこれだけ大胆な採光器量を持っていたのか、更に作品に対しての撮影条件や照明の時間、機材等制約の悪条件などの予備知識が意識の中に邪魔となり、批評、採点どころか、かえって学ぶ点・見せつけられた・という神経が先行し、自分の仕事の糧として利用すべき感覚となって、冷静さを欠く事が多くあった。……選定委員長、失格である……

さて昨年迄の審査は、当協会会員による内輪だけの選定委員会が構成されて、あたかも重箱の中味を突っく合つての審査であったが、今年ははじめて外部有識者の方々(3名)に一般選定委員として参加を頂き、討論の場に於ても一味違った意義ある審査になった。推薦作品として、劇映画5本、TV映画1本、非劇映画1本、CF7本が出品され、そのいずれもが当協会員の

担当作品であった。その他、会員、非会員の優秀作品の落ちこぼれが多くあったのは残念である、また今回の特色として劇映画5本、TV映画1本の計6本が全部惨殺による血なまぐさい、人間の死をテーマにしたサスペンス・ドラマであった。審査の対照としては、同一要素をもつ作品のため、審査が容易であったのか、難しかったのか理解に苦しんだ。作品のモチーフの表現方法と、照明技法、器材の創意工夫等を主眼として失敗を恐れず冒険的要素を含んだ作品と、照明設計の読み、深さの明確さ等に絞って審査対照として評価した。



52年度照明技術賞候補作品一覧

劇映画部門	松竹作品	小林松太郎
八つ墓村	東映作品	小林 芳雄
犬神の悪霊	東宝作品	佐藤幸次郎
悪魔の手毬唄	角川春樹事務所作品	熊谷 秀夫
人間の証明	東宝映像作品	小島 真二
ハウス		
非劇映画部門		
海上自衛隊	東宝映像作品	出竹 秀夫
TV映画部門		
消えた私	松竹テレビ室作品	三浦 礼
CF部門		
ポピーボールテスV	東宝映像作品	宮川 清
ウインタッチライター	東宝映像作品	出竹 秀夫
日立冷蔵庫	東宝映像作品	池田 泰平
マテルシズラーライト	東宝映像作品	三上 鴻平
東芝アクタスボムビート	トレーナー篇	
	太陽企画作品	佐野 武治
セントラルガラスビデオ東京作品		川辺 征男
オリエント時計	デジタルクオーツ船長篇	
	東映CM作品	森沢 淑明